

東京の「鳥類目録」をつくろう (20)

都レッドリストへのデータ活用と作成作業のこれから

1. 東京都の保護上重要な野生生物種・レッドリストの改定版には、これまで集積したデータや調査結果が活用されました。

東京都環境局から、都内の保護上重要な野生生物のレッドリストが12年ぶりに改定され、本土部・2010年版、鳥しょ部・2011年版(図)が出されました。おもな変更部は、本土部では掲載種は162種となり、前回(107種)に比べると大幅に増加しています。これはおもにシギ・チドリ科の鳥が加わったため、前回の9種から41種となっています。また、夏鳥(コマドリ・コルリ・オオリなど)や草原性の鳥(ヒバリ・オオヨシキリ・オオジュリンなど)が加わっているのは、最近の厳しい状況を反映したものといえるでしょう。逆にツクシガモやイヌワシなど記録としてはあるものの、東京都のレッドリストに含める必要がないと思われる種は除かれています。



鳥しょ部は伊豆諸島と小笠原諸島に分けて記載されていて、前者は前回68種から42種、後者は23種から32種となっていて、新規掲載種が、それぞれ12種と14種と大幅に入れ替わられています。伊豆諸島でリスト入りしたもので目立つ鳥はアホウドリのなかま。逆に削除されたものとしては、カモとワシタカ類。除かれたものの多くは、伊豆諸島であえて保護のリストに入れる必要がないという考えからです。また、小笠原諸島については、アホウドリのなかまとアジサシ類が追加されました。これは調査が進んで実態が明らかになったことがおもな理由です。次号以降、その内容を紹介しますが、どんな種がリストアップされているかは、東京都のHPをご覧ください。

ところで、今回の改定にあたっては、新しい「東京都産鳥類目録」の作製のために収集中のデータが役立っています。また、東京湾(東京港一帯)での水鳥類のカウント調査結果も、本土部のレッドリストに多くのシギ・チドリ類が組み入れられるきっかけとなっています。

会の活動として「保護研究」を立ち上げ、研究部では都内全域を対象に、その基礎となる調査を実施しています。ぜひご参加ください。

2. 新・東京都産鳥類目録作製のこれから

新しい『鳥類目録』の作製を進めています。昨年は「保護研究」の立ち上げや、事務局体制の改革などで時間がとられ、とくに大きな進展ができませんでした。しかし、ベーシックな作業は進んでいます。また、インターネット上から新しい都産鳥類を見つけ出し、きちんとした記録として掲載するなどを続けています。今年は、鳥類目録作製作業が目に見えるような形で進める予定です。ご期待ください。

《この冬の越冬鳥調査のお願い》

昨年と同じように、越冬鳥調査はご自分のフィールドで、任意をお願いします。結果は下記にご報告いただければ幸いです。興味ある記録については鳥信コーナーで、また、まとまったものは、研究部レポートで紹介いたします。よろしく願いいたします。

【調査結果送り先】 下記のいずれかでお送りください。

①文書：〒160-0022 新宿区新宿5-18-16 新宿伊藤ビル3階 日本野鳥の会東京・研究部

②Fax：03-5273-5142 ③インターネット・鳥信コーナー〔研究部HPにアクセスしてください〕